

平成31年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人新潟市芸術文化振興財団	
施 設 名	新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）	
助 成 対 象 活 動 名	新潟ファイブ・リングス・プロジェクト	
助 成 期 間	5	(5年間)
内 定 額	54,601	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

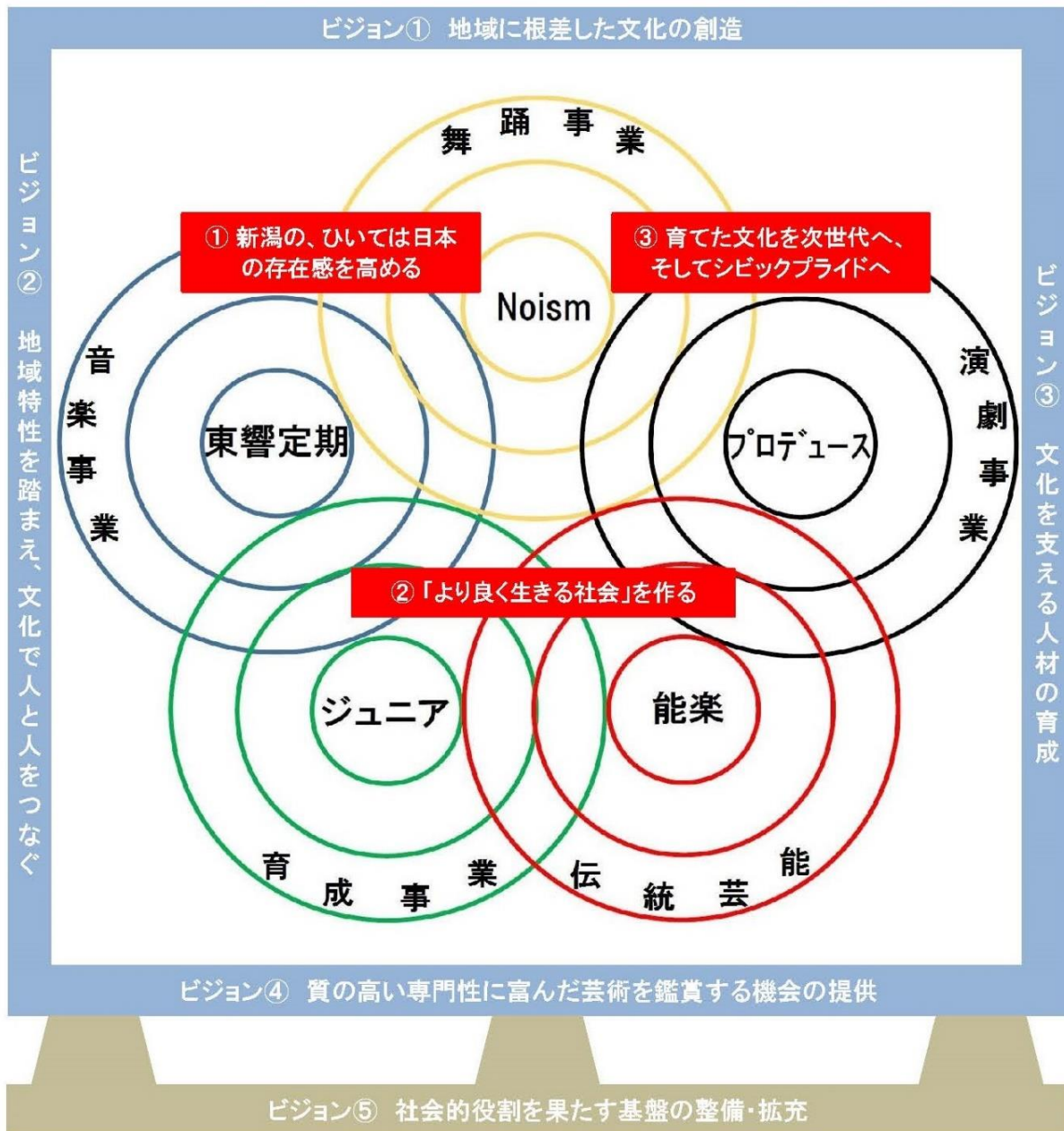
全体図（概念図）

(事業名) 新潟ファイブ・リングス・プロジェクト

リゅーとぴあ 3つの社会的役割

- ①新潟から全国へ 世界へ発信
- ②芸術文化を通じて「生きる力」を育む
- ③新潟の文化を次世代へ継承し、市民の誇りにつなげる

社会的役割につながる **最終アウトカム**



(2) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	東京交響楽団新潟定期演奏会 (音楽事業)	令和元年5月26日他	ジョナサン・ノット (指揮) 東京交響楽団 (管弦楽) ブリテン: ヴァイオリン協奏曲 op. 15 他	目標値	6,850
		コンサートホール		実績値	6,761
2	りゅーとぴあプロデュース公演「イン・ザ・プール」 (演劇事業)	令和元年6月29日他	原作: 奥田英朗 上演台本・演出: 笹部博司 舞台監督: 小林 仁 (加藤事務所) 出演: 渡辺 徹 内 博貴	目標値	2,120
		劇場		実績値	2,484
3	Noism 事業 (舞踊事業)	令和元年7月19日他	演出振付: 金森穰 照明デザイン: 伊藤雅一 (RYU)、金森穰 映像: 遠藤龍 出演: Noism1+金森穰	目標値	5,877
		劇場		実績値	5,224
4	能楽事業 (伝統芸能事業)	平成31年4月21日他	解説 長谷川晴彦、舞囃子「杜若」 (観世流) 梅若万三郎、狂言「伊文字」 (和泉流) 野村萬斎 他	目標値	834
		能楽堂		実績値	741
5	ジュニア音楽教室事業 (育成事業)	令和元年9月8日他	永峰大輔 (オーケストラB合奏指揮) ショスタコーヴィチ/交響曲第5番 他	目標値	2,570
		コンサートホール		実績値	2,136
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。

事業計画では、公演、ワークショップ、講座などの鑑賞や体験、また演奏や実演への活動参加により、芸術文化への市民の理解を深めることができ、社会的役割を果たす「芸術文化の多様性」を市民に提示していく。実演家、鑑賞者、参加者などのステークホルダーが多くなることで事業のリングは大きくなり、幾重にも重なり、りゅーとぴあの「公共財」としての存在意義を高めることを期待している。

本計画では「ミッション(社会的役割)」「ビジョン」に基づき、「最終アウトカム」を発現するため、事業実施(アウトプット)が行なわれる。事業計画は5年間の計画であり、最終アウトカムを達成するため、中短期的な成果として「13の中短期アウトカム」を設けている。現在までの取組みにおいて遅延や齟齬は生じていない。

このミッションである「新潟から全国へ 世界へ発信」「芸術文化を通じて『生きる力』を育む」「新潟の文化を次世代へ継承し、市民の誇りにつなげる」は、新潟市が文化政策を規定した「新潟市文化創造交流都市ビジョン」における基本方針に合致している。りゅーとぴあはこのミッションの基に、新潟市における文化芸術の振興及び市民の活力創出など社会的役割の達成を目指している。

平成31年度では、助成対象活動実績報告書の通りに事業を行ない、「最終アウトカム」「中短期アウトカム」発現のための実績と効果をあげることができた。また今年度は新潟市において「第46回市政世論調査」が行われ、この調査では「りゅーとぴあが効果あげていると思う活動」「りゅーとぴあが今後も積極的に進めていくべきと思う活動」「りゅーとぴあの次世代への継承」という事業計画の「最終アウトカム」の発現と関連できるような質問を設けた。この調査から市民がこの事業の意義や効果を認識、期待をしていることが確認できた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

事業計画では「13の中短期アウトカム」を目指すことで、その目標・指標により文化的、社会的、経済的意義を認められるよう設定されている。(以下、中短期アウトカムを【 】にて表記)

平成31年度の実施事業では、専属舞踊団の「Noism 事業」と演劇事業「プロデュース公演」が【新潟のプレゼンス向上】において「<文化的意義>」が認められる。Noismのレジデンスによる年間通してのコンテンポラリーダンスの創作活動は、新潟から国内外に発信していくオリジナルな事業として独創性・先導性が認められる。また、演劇事業のプロデュース公演は「地方劇場からの発信 東京へ、ツアーへ」の企画として平成25年度から継続的に実施されて先導性が認められる。

「ジュニア音楽教室事業」は育成事業のコアである。この事業では【地域の文化活動の活性化】で「<社会的意義>」が認められる。小学～高校生の子どもたちがオーケストラ、合唱、邦楽の各教室で年間通しての活動は、先導性のある事業と言える。教育委員会や学校などの教育機関とも協働しながら、ステークホルダーとも言える子どもの家族、OB・OGたちとも協力体制を築いている。地域を基盤としながら音楽を通しての子どもの育成を図ることから【舞台芸術が身近になる】のアウトカムも設定できる事業である。

「<経済的意義>」では【交流人口の拡大】【地域経済にプラス】の2つのアウトカムが設定され、目標を「遠方からお客を呼ぶ、音楽フェスティバル等の実施」としている。現状では音楽フェスティバル等のアウトカムが発現できる事業は実施できていない。ステークホルダーである新潟市や実演家団体などとは地域のニーズなども考慮しながら協議中である。本年度は新潟市、当財団、実演家団体との共催により「春の新潟 音楽ウィーク」を4/27～5/5に開催。今後のアウトカム発現を想定できる事業へのステップ企画として位置付けている。

(2) 有効性

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

設定した最終アウトカム3つそれぞれについて、平成31年度実績報告書の内容をもとに検証していく。

①：新潟の、ひいては日本の存在感を高める（最終アウトカム）

【3. 交流人口の拡大（中短期アウトカム）】 【4. 地域経済にプラス（中短期アウトカム）】

これからの新たな音楽フェスティバル開催に向けての準備企画として「春の新潟・音楽ウィーク」を企画実施した。指標としているのは新潟市外からの集客20%以上という数値であるが、公演アンケートによる分析では平成31年度は14.5%となっており、アウトカムが発現しているとは言い難い数値となった。しかしながら、政策研究大学院大学（GRIPS）による、「りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館インターネット調査概況報告書」によると、平成30年の実施調査ではあるが、館からの距離が80kmまではりゅーとぴあの認知度が60%、訪問度が15%を超えている（ちなみに県内全域での認知度は85.9%、訪問度は45.0%であった）。次年度以降の音楽フェスの企画内容をより精査することで最終アウトカムの発現は可能であると考えられる。

また、市外および県外からの集客が構想どおりにあがっていけば、それに伴う飲食や宿泊なども当然ついて回るため、地域経済にも確実にプラスとなることが見込める。

ただし、新型コロナウイルス対応により、県境をまたいでの移動が制限されるような状況が長期に継続するようであれば難しいかもしれない。この場合は目指すべきアウトカムの再考の必要があるだろう。

②：より良く生きる社会を作る（最終アウトカム）

【5. 多様性への理解促進（中短期アウトカム）】

指標としているのは年2件以上という企画数であるが、平成31年度は舞踊事業のNoismによる「視覚障がい者のためのからだワークショップ」、演劇事業の関連企画として「グリーフ（悲嘆）ケア入門講座」、多様性への理解を深めることができる演目として演劇公演「エブリ・ブリリアント・シング」（東京芸術劇場との共同企画）を実施することができ、指標における目標はクリアしている。「理解」へのアウトカムの発現の測定には、定性評価が避けて通れないが、その方法についての調査研究が課題となっている。

③：育てた文化を次世代へ、そしてシビックプライドへ（最終アウトカム）

【13. 鑑賞者の交流拡大（中短期アウトカム）】

この項目については年4回以上の出演者を交えた交流会の実施を指標とした。舞踊・演劇におけるアフタートークを計8回開催するなど、定量的な部分はクリアしている。観客の動向調査やSNS利用の測定なども今後開発していきたい。

以上のとおり、最終アウトカムについては設定した指標をベースに発現が可能であると考えられるが、よりよいアウトカムの測定方法については継続して調査、研究を行っていく必要があると考えている。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

新型コロナ・ウイルスの影響により、一部事業が中止・延期とはなったが、「ファイブ・リングス・プロジェクト」の各コア事業をほぼ計画通りの事業期間、事業費で適切に履行することができた。収入については申請比100.3%、支出については申請比98.2%、そのほかについても下記のとおり、良好なアウトプットとなっている。

以下 ① アウトプットの概要 ② アウトプットを高めるための取組

1. 音楽事業「東京交響楽団新潟定期演奏会」

① 《入場者数》6,761人 (目標: 6,850人)

《満足度》平均98.6% (目標: 95%)

《東響アウトリーチ》60回 (目標: 40回)

②公演当日のロビー・コンサートやアウトリーチ活動の多さは、準フランチャイズ契約を結ぶオケならではの、質の高い演奏とともに新潟市民に親しまれていることはもとより、市外からも来場者が数多く訪れた。

2. 演劇事業「リゅーとぴあプロデュース」

① 《入場者数》2,484人 (目標: 2,120人)

《満足度》98.8% (目標: 95%)

②東京、兵庫、姫路、加東の全国4都市10公演を実施することで、公共劇場同士の連携を図り、ノウハウ共有やネットワーク構築を果たすことができた。

3. 舞踊事業「Noism事業」

① 《入場者数》5,224人 (目標: 5,877人) *コロナウイルスによる公演延期に伴う目標未達

《満足度》平均99.3% (目標: 95%)

《WS回数》20回 (目標: 5回)

②劇場専属による年間を通して質の高い作品創作活動を継続することで、海外(モスクワ)1都市3公演、東京、埼玉、富山、鳥取の全国4都市10公演を行い新潟のプレゼンス向上に貢献した。ワークショップにも力を入れ、視覚障がい者向けのワークショップを初めて開催し好評を得た。

4. 伝統芸能事業「能楽事業」

① 《入場者数》741人 (目標: 834人) *コロナウイルスによる公演中止に伴う目標未達

《満足度》平均96.9% (目標: 95%)

②助成対象事業となる公演実施のほかに、学校へのアウトリーチ、子ども向けのワークショップ等を実施するなど地域の文化活動の活性化に努めた。

5. 育成事業「ジュニア音楽教室事業」

① 《入場者数》2,136人 (目標: 2,570人) *他事業等と日程が重なり目標未達

《満足度(公演)》平均99.6% (目標: 95%)

《団員数》289人 (目標: 294人)

②全国公立ジュニアオーケストラ連絡協議会、にいがたジュニアコーラス・フェスティバル実行委員会など全国や県内の団体との交流に努め、子どもたちも自主的に他団体と関わることで大きく成長する様子が見てとれた。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

本事業計画「ファイブ・リングス・プロジェクト」は、公共ホールが地域社会に向けて5つの文化的アプローチを行ない、それが多層的な影響を発揮することを意図している。全国で唯一の公共ホール専属コンテンポラリー・ダンス・カンパニーである Noism、リ्यूとぴあを準フランチャイズとして様々な活動を展開する東京交響楽団、設置された能楽堂を生かすことで奥行きのある企画を実現している能楽事業、地方の一公共ホールでありながら製作した舞台がほぼ全都道府県で上演される勢いのプロデュース演劇公演、全国的にも珍しいオーケストラ・邦楽合奏・合唱という3つの通年活動を行なうジュニア音楽教室が、それぞれの分野におけるコア事業となっている。

約900席の優れた機能を持つ劇場と充実したスタジオをベースに2004年設立されたNoismは、芸術選奨文部科学大臣賞（舞踊部門）2008年、朝日舞台芸術賞・舞踊賞2009年、毎日芸術賞2019年など多くの賞を受賞してきた（団体・個人を含む）。この間、国内はもとより欧州・北米・アジアなどで58回の海外公演を重ねてきた。2019年は新潟市において事業継続の検討がなされたことをきっかけに多くの注目が集まり、全国紙などに繰り返し記事が掲載されたが、これはNoismが独創的で先進的な活動の証左であると考えられる（活動は3年間延長となり、そのことも肯定的な評価を受けた）。

約2,000席のコンサートホールで開催されている東京交響楽団新潟定期演奏会は、近年では年6回、すでに通算117回に達しているが、それは同団との提携の一面でしかない。夏休みの親子向けコンサート、それに先立つ市内小学校60校を回る学校訪問、さらには定期演奏会同日に開催するロビーコンサートで、同団楽団員の奏でる音楽に耳を澄ました市民の延人数は、市人口の約半数に迫ろうとしている。プロ・オーケストラが本拠地から数百キロも離れてこれほど活発な事業展開を行なっていることは、我が国の歴史上他に例を見ない。

専門ホールとしての能楽堂の存在と、そこで培った人脈を生かして、リ्यूとぴあでは能・狂言の上演と様々な対象・場所で行なう伝統芸能のアウトリーチ・プログラムを行なっている。平成31年度は鑑賞事業5公演1,781人、普及・育成事業25回1,792人もの観客・参加者を集めたが、これほど活発に事業を展開している能楽堂は、少なくとも首都圏以北の東日本には存在しない。

舞台芸術を生み出す劇場として、演劇のプロデュース公演を継続して行なってきた。そこで生み出された舞台作品は、全国各地で上演されている。これは、優れた舞台機構を持つハードとしての劇場と、それに付随して当財団が擁している専門的人材の能力、そして継続した運営によって培ってきた全国的な人脈の成果に他ならない。このように、全国に波及する事業展開を実現している公共ホールは極めて少ない。

また、ジュニア音楽教室の通年の活動には、企画制作ノウハウの蓄積が不可欠である。特に他にほとんど例がないジュニア邦楽合奏の育成・運営は、その手法だけでなく演奏曲そのものを作り出す（作曲委嘱）ことから始めなければならず大きな困難を伴ったが、それゆえに極めて独創性・新規性の高い取り組みとなっている。昨今は全国各地に広がっているジュニアオーケストラも、新潟市の場合は「初心者を受け入れ」「ステップアップするカリキュラムの整備」が特徴であり、入団後早い人では3~4年で有名シンフォニーに挑戦することができることが大きな特徴である。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館は、コンサートホール・劇場・音楽堂の3つの専門ホールの集合体である。またそれに付随して、音楽・演劇・舞踊の各分野の企画制作を担う専門スタッフ、広報担当を擁している。正職率も比較的高く、勤務歴の長い職員はりゅーとぴあ開館以来の経験を蓄積してきている。

専門ホールのハード機能と専門人材のソフトパワー、コア事業である【Noism】【東響】【能楽】【演劇プロデューサー】【ジュニア音楽教室】のそれぞれでつながっている金森穰や東京交響楽団、能楽師・狂言師等のアーティストの存在が相まって、極めて高質かつ多様な舞台芸術体験が生まれてきた。Noism に対する多くの賞の授与、プロデュース公演の全国各地での上演、ジュニア音楽教室への重要な国際会議でのレセプション演奏依頼は、事業への高い評価であるのと同時に、当会館の評価向上につながっている。

人材育成面においても、多くの成果が生まれている。

ジュニア音楽教室で育った子ども達のうち、何人もが音大に進み、さらに研鑽を積んでジュニア音楽教室の講師となっている。これは、息の長い育成事業を続けてきたことの大きな成果である。また、それ以外の講師陣も地域の音楽家と首都圏から招いている優れた人材を組み合わせ、充実した指導体制を作ることができている。

りゅーとぴあアウトリーチ事業と名付けて行なっているプログラムも、大きな成果をあげている。地域の音楽家をオーディションで選出し、4年生向けのプログラムを開発してトレーニングを重ね、平成31年度は21校26回の訪問プログラムを実施した。登録期間は2年間ですでに第4期となっているこの取り組みは、音楽家の力を大きく伸ばすキャリア・パスとなっており、この事業を経験した音楽家が地域各地で優れた演奏を聴かせ、地域のクラシック音楽シーンの中心を担っている。

Noism も、プロフェッショナルなダンサーの集まりである Noism1 とは別に、プロをめざす若手の舞踊家が全国から集まる付属集団 Noism2 を擁している。ここでトレーニングされたダンサーが数多く Noism1 に昇格している他、東京・海外でダンサーとして活躍している。

この他、東京交響楽団楽団員による年間60校もの小学校訪問と、その後に設定されたコンサートホールでの親子向け名曲コンサートは、アウトリーチとその後の展開が密接に結びついたプログラムの好例として注目されている。また、りゅーとぴあコンサートホールでパイプ・オルガンに初めて触れ、その魅力に感化されて音大進学・海外留学を果たし、世界的コンクールの一つであるシャルトル国際オルガンコンクール（フランス）で優勝したオルガニスト石丸由佳がりゅーとぴあの第4代専属オルガニストに決定したことも、平成31年度における大きなトピックであった。

ホールの設置者である新潟市は、りゅーとぴあの施設機能並びに当財団の人的資源を、広く新潟市民の文化的生活の向上に資することを願っている。そこで当財団はこれまでの顧客層だけではなく、SNSでの情報発信や公演プログラムのビハインド・ストーリーを広く紹介する「りゅーとぴあん」の制作・配布、ホール職員が毎週FM番組に出演してチラシには書けない公演の魅力を紹介するなど、広く市民各層にアートの魅力を伝える活動を行なっている。これらのことが、地域社会におけるりゅーとぴあ及びりゅーとぴあの活動に対する理解促進につながり、新規顧客の獲得とサイレント・パトロンを含めた支持拡大に結びついていくことを願っている。

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

本助成金の事業計画において、アウトカムを発現させるために必要な内部変化として《**専門人材（職員）の確保**》《**財源の多様化**》を掲げている。また、アウトカムを発現させるための取組として《**文化分野以外との連携**》《**地域の文化関係者との信頼構築**》《**全国・世界の文化施設・団体との連携**》を掲げている。

《専門人材（職員）の確保》

劇場法指針では「5つの能力」を持つ人材の育成が努力義務とされている。本助成金の事業計画において、当館では「5つの能力」に加えて、これを超える能力（ $+\alpha$ ）を持つ人材の育成に取り組むことを掲げており、平成31年度は「能力3（組織・事業を管理運営する能力） $+\alpha$ ：劇場を経営の観点から運営できる能力」を持つ人材を育成するために職員を『**社会的インパクトマネジメント研修（CSOネットワーク主催）**』『**劇場の未来を考える-課題解決型シアターマネジメント 2019（政策研究大学院大学主催）**』に参加させ、得た知見を活かして令和2年度の事業計画にむけてアウトカム指標の見直しを行った。

また、「能力6：地域&社会貢献をするために必要なステークホルダーをつなぐ能力」をもつ人材は、平成30年度に准認定ファンドレイザー資格を取得した3名の職員のうち1人が、平成31年度の『**認定ファンドレイザー試験に合格**』した。『**職員の正規雇用率60%超**』『**正規職員の平均勤続年数は14年**』と育成した人材は定着し『**人材の育成と定着のサイクル**』により、常に高レベルでの組織活動が可能となっている。

《財源の多様化》

平成30年度は『**Noism活動支援会員制度の見直し**』『**ホールスポンサー制度の策定**』を行った。平成31年度のNoism支援個人会員数は前年度比約1.6倍、金額同約2倍と見直しの効果が顕著に現れた。加えて、未来を担う子どもたちの文化芸術環境を向上させることを目的に、新たな寄付制度『**芸術の未来プロジェクト**』を平成31年度に立ち上げた。今後、ホールスポンサーと共に獲得に力を入れていく。

事業計画実施の最大の財源である『**新潟市からの財政支援は直近10年間ほぼ同額（平成22年度比90%以上）**』と安定的に推移している。新潟市からは財源の多様化への努力を求められ続けており、これに応えることで市は同水準の支援を続けるという『**財源の安定化サイクル**』が、持続的な組織活動の裏付となっている。

《文化分野以外との連携》 《地域の文化関係者との信頼構築》 《全国・世界の文化施設・団体との連携》

平成31年度の実績は、（一社）グリーンケアパートナーから講師を招聘したグリーン（悲嘆）ケア入門講座、地元TV局等との多数の共催事業、地元新聞社主催カルチャースクールへ職員及び専属オルガニストを講師派遣、Helikon-Opera Theatre(ロシア)からの招聘による上演、東京芸術劇場、豊島区立舞台芸術交流センターとの連携公演等、多分野多方面に渡り『**ネットワークの形成と組織活動の活性化サイクル**』につながっている。

最終アウトカム発現・定着の見込があることは有効性の自己評価で述べたとおりだが、平成31年度はロジックモデル（インプット→アクティビティ→アウトプット→アウトカム・インパクト）の考え方を元に『**インプット調達計画（インプット関連）・モニタリング計画（アクティビティ・アウトプット関連）・評価計画（アウトカム関連）の独自様式**』を策定した。令和2年度以降これを用いてPDCAサイクルの更なる見える化を図る。